

森美術館館長 片岡真実 フランス共和国「芸術文化勲章」受章

このたび、森美術館館長 片岡真実は、フランス共和国より、「芸術文化勲章シュヴァリエ」を受章いたしました。2026年9月8日(火)駐日フランス大使公邸にて、オフィシエを受章した塩田千春氏との合同叙勲式が執り行われ、ベアトリス・ル・フラペール・デュ・エレン大使より勲章が伝達されました。

片岡真実の受章理由について、在日フランス大使のコメント概要は次のとおりです。

「片岡さんが館長を務める森美術館は、才能、アイデア、想像力が交わる国際的な対話にとって欠かすことのできない舞台に発展しました。片岡さんの歩みは日本の国境を越え、パリのグラン・パレで開催された『塩田千春展：魂がふるえる』をキュレーションするなど、世界の数多くの機関やイベントに積極的に携わり、現代アートは決して作品の流通にとどまるのではなく、知的な開放や、考え方・見方・体験の伝達と対話を促すべきものであるという見方を常に擁護してきました。国立アトリサーチセンターでは、ポンピドゥー・センターとキュレーターの相互派遣パイロットプログラムを立ち上げ、また来たる『六本木アートナイト2026』ではフランスが誇るアートを迎えます。以上の理由から、また現代アートと文化対話への顕著なご貢献を称えて、フランス共和国文化大臣の名において芸術文化勲章シュヴァリエを授与します」



撮影：田山達之

芸術文化勲章

芸術文化勲章は1957年に創設され、芸術ならびに文学の分野で卓越した創造活動を行なった者、もしくはフランスおよび世界において芸術と文学の発展に著しく貢献した者にフランス共和国文化省より授与される勲章で、シュヴァリエ、オフィシエ、コマンドゥール の3つの等級がある。森美術館では、これまで前館長 南條史生(2016年 オフィシエ)が受章している。なお、初代理事長 故・森佳子は、2013年にフランス共和国よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受章している。

片岡真実 (かたおか・まみ)

森美術館館長、国立アトリサーチセンターエグゼクティブ・アドバイザー、京都芸術大学大学院ICA京都所長。2003年より森美術館、2020年より現職。第9回光州ビエンナーレ共同芸術監督(2012年)、第21回シドニー・ビエンナーレ芸術監督(2018年)、国際芸術祭「あいち2022」芸術監督を歴任。2027年ヘルシンキ・ビエンナーレ共同キュレーター。CIMAM(国際美術館会議)では2014~2022年に理事(2020~2022年は会長)。一般財団法人森現代芸術財団常務理事、一般財団法人福島富岡文化財団代表理事、公益財団法人小田原文化財団評議員ほか、文化芸術に関わる諸委員会委員、国際芸術賞審査員、講演等多数。第17回西洋美術振興財団賞学術賞(2022年)受賞。



撮影：新津保建秀

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報 E-mail: moriartmuseum-pr@mori.co.jp

六本木アートナイト2026

片岡が実行委員長を務め、2026年10月31日(土)～11月1日(日)に開催する「六本木アートナイト2026」のプログラム「RAN Focus」では、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、アンスティチュ・フランセパリ本部の助成のもとフランスのアートにフォーカスし、サンキャトル・パリ 前アーティスティック・ディレクター、ジョゼ＝マニュエル・ゴンザルヴェスのキュレーションにより、インスタレーション、映像、パフォーマンスなどをご紹介します。ぜひご期待ください。

日時：2026年10月31日(土)～11月1日(日)

開催場所：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会(国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合 ※五十音順)

※詳細は公式ウェブサイト(<https://roppongiartnight.com/>)をご確認ください。

■「塩田千春展：魂がふるえる」

片岡が企画を担当した、塩田千春氏の過去最大規模の個展「塩田千春展：魂がふるえる」は、2019年に森美術館で開催後、世界8都市に巡回。グラン・パレ(パリ)では30万人以上が来場し、続く東洋美術館(イタリア、トリノ)での巡回展をもって、総入場者数が200万人を突破しました(※)。

今後もカナダのモントリオール美術館(2026年9月26日[土]～2027年2月14日[日])への巡回を予定しています。

※以下9館の総入場者数

東洋美術館(イタリア、トリノ、2025-2026年)

グラン・パレ(パリ、2024-2025年)

深圳美術館(中国、2023-2024年)

ヌサンタラ近現代美術館(ジャカルタ、2022-2023年)

クイーンズランド・アート・ギャラリー／ブリスベン近代美術館(オーストラリア、2022年)

龍美術館(上海、2021-2022年)

台北市立美術館(台湾、2021年)

釜山市立美術館(韓国、2019-2020年)

森美術館(東京、2019年)

塩田千春(しおた・ちはる)

1972年、大阪府生まれ。ベルリン在住。生と死という人間の根源的な問題に向き合い、「生きることとは何か」、「存在とは何か」を探索しつつ、その場所やものに宿る記憶といった不在の中の存在を糸で紡ぐ大規模なインスタレーションを中心に、立体、写真、映像など多様な手法を用いた作品を制作。2008年、芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2025年、芸術選奨文部科学大臣賞受賞。 <https://www.chiharu-shiota.com/>

■ 森美術館で開催したフランス関連の展覧会

ロン・ミュエク (2026年)

ロン・ミュエクの制作活動全体を包括的に紹介する、国内18年ぶりの大規模個展。パリのカルティエ現代美術財団での開催(2023年)を皮切りに、ミラノとソウルを経て、同財団との共催により森美術館で開催。

ルイズ・ブルジョワ展：地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ (2024-2025年)

20世紀を代表する最も重要なアーティストの一人、ルイズ・ブルジョワ(1911年パリ生まれ、2010年ニューヨークにて没)の国内27年ぶりの大規模個展。

シンプルなかたち展：美はどこからくるのか (2015年)

先史時代の石器から現代アートまで、時代やジャンルを越え、世界各地から集められた「シンプルなかたち」を紹介。ポンピドゥー・センター・メス、エルメス財団との共同企画展。

フレンチ・ウィンドウ展：デュシャン賞にみるフランス現代美術の最前線 (2011年)

フランスで最も権威ある現代美術コレクターの団体「ADIAF」が主催する「マルセル・デュシャン賞」の10周年を記念し、マルセル・デュシャンと同賞のグランプリ受賞作家ら28名の作品を一挙に公開。

アネット・メサジェ：聖と俗の使者たち (2008年)

フランスを代表する女性アーティスト、アネット・メサジェを紹介する日本初の大規模個展。

ル・コルビュジエ展：建築とアート、その創造の軌跡 (2007年)

20世紀最大の建築家、ル・コルビュジエの生誕120年を記念し、「絵画と建築」を通して多彩な業績を紹介、その創造性に迫る回顧展。

アーキラボ：建築・都市・アートの新たな実験展 1950-2005 (2004-2005年)

サントル地域現代芸術振興基金とポンピドゥー・センターの建築コレクションを中心に約90名の建築家の理論と実践を紹介する、日本最大級の建築展。

■ フランスで開催した森美術館企画の展覧会

浮世：ジャポニズムから日本の現代アートまで (2024年)

フランス・ノルマンディー地方ドーヴィルの文化施設レ・フランシスケヌとの共同企画展。2024年は初の「印象派展」から150周年にあたり、芸術祭「Normandie Impressionniste 2024」のプログラムの一環として開催。森美術館のコレクションから17名、35点を出品し、印象派の発展と深い関係にある日本文化に過去と現代の双方から光を当てた。

■ フランスへ巡回した森美術館企画の展覧会

塩田千春展：魂がふるえる (森美術館、2019年)

【巡回展】塩田千春展：魂がふるえる (グラン・パレ、2024-2025年)

日本美術が笑う：縄文から20世紀初頭まで (森美術館、2007年)

美術のなかにある「笑い」や「ユーモア」を同時開催の「笑い展」とともに模索する展覧会。日本の古美術のみで構成し、多様な日本の笑いを5つのテーマに分けて紹介。

【巡回展】笑いの日本美術史 縄文から19世紀まで (パリ日本文化会館、2012年)